

短詩型文学を読む愉しみ

国語科

重村 弘之

わが国の文学は大きく二つに分けられています。散文と韻文です。散文は、小説・評論・随筆などで、ほとんどが意味性を担った文章です。それに対して、韻文は、短歌・俳句・詩などで、意味性に加えて音楽性を重視します。「韻」とはリズムのことで、音楽性を備えた文学です。日本語は韻文に適した言語だと言われますが、それはなぜかという、音数律による表現の長い歴史があるからです。日本語の音数律は、5音・7音を基調とし、短歌や俳句を支えてきました。なぜ5音・7音なのかと言われるとちょっと難しい問題ですが、歴史が長い間篩(ふるい)にかけて残してきた伝統形式であるということは間違いありません。日本語にとってとても居心地のいい音数なのでしょう。

さて、この音数律は短歌や俳句の中にだけにしか生き残っていないのではないかと決してそうではなく、われわれの日常生活のさまざまな場所に潜んでいます。

A「飛び出すな 車は急に 止まれない」

B「この味が ビールの流れを 変えようと しているアサヒ スーパードライ」

C「蚊帳の中から 花を見る 咲いてはかない 酔芙蓉」

Aは交通標語で5・7・5の俳句の音数律で成り立っているし、Bは商品のキャッチコピーで5・7・5・7・7の短歌の音数律を刻んでいます。Cは石川さゆりの演歌の歌詞ですが、これも7・5の伝統的なリズムを踏んでいます。このように5・7のリズムは現代でもわれわれの言語生活の一端を担っています。それはこのリズムがわれわれ日本人の中にある感性のDNAに働きかけ、共感と呼び覚ますからではないかと思えます。

明治時代初頭、文明開化とともに西欧から実にたくさんのがわが国に流入しました。品物だけではなく、制度や思想、また新しい文学もしかりです。その中に「ポエム」という魅力的な短詩型文学もありました。この詩型に出会った明治の文学青年たちは、短歌や俳句といった従来 of 狭い枠にとらわれない開放的な世界を垣間見たのでした。まず、上田敏などの翻訳によってヴェルレーヌやボードレールといった西欧の詩が紹介されていきます。そして、島崎藤村らによって、文語定型詩として創作が試みられていきます。

小諸なる古城のほとり

雲白く遊子悲しむ

緑なす藜藿は萌えず

若草も藉くによしなし

しろがねの衾の岡辺

日に溶けて淡雪流る

ふるさとは遠きにありて思ふもの

そして悲しくうたふもの

よしやうらぶれて異土の乞食となるとても
帰るところにあるまじや
ひとり都のゆふぐれに
ふるさとおもひ涙ぐむ
そのころもて
遠きみやこにかへらばや
遠きみやこにかへらばや

前者は藤村の詩の一節であり、後者は室生犀星の「小景異情」である。詩といっても懐かしい日本語の調べが流れていることに気づくでしょう。7・5調のリズムがきわめて日本的な抒情を奏でています。これは彼ら明治の青年詩人たちが、定型の頸木(くびき)から自由になれなかったというよりも、日本語を大切にしながら、西欧的な抒情に近づこうと試行錯誤した証しだとも言えます。

その試行錯誤は時代を経て、口語自由詩として結実します。現代を代表する口語自由詩を一つあげます。

南風は柔らかい女神をもたらした
青銅をぬらした 噴水をぬらした
ツバメの羽と黄金の毛をぬらした
潮をぬらし 砂をぬらし 魚をぬらした
静かに寺院と風呂場と劇場をぬらした
この静かな柔らかい女神の行列が
私の舌をぬらした

西脇順三郎の詩「雨」の冒頭部分です。なんと若々しく柔軟な音楽なのでしょうか。第一行目で季節の扉を開き、「ぬらした」の繰り返しに静かな雨の音を響かせ、「青銅」と「噴水」という、一つの風景の中にありながらまったく異質な物を、その雨が濡らす。雨の女神はそれから、いかにも西欧的な明るい空間を、ゆっくりとしかし隅々まで濡らしていきます。この詩を知ったのは高校時代の国語の授業であったと記憶します。国語の授業はほとんど睡眠学習であった私はこの詩によって、初めて文学の広場に連れ出されたのです。意味というよりも心地よい音楽に聴き惚れたのだと思います。この詩は現代詩が辿り着いた最高傑作だと言われます。もはや文語もあの音数律も姿を消しています。しかし、どこか懐かしい日本語の美しい調べが通底音としてあるような気がします。短詩型文学を読む愉しみとは、つまるところ、詩の奏でる音楽を心豊かに味わうということです。

私たち現代人は毎日膨大な意味の世界に囲まれて生きています。また、意味を求めて生きています。短詩型文学を読むということは、そういった意味のしがらみを超えて、自らの精神生活を落ち着きのあるものに変えていくことではないでしょうか。若い君たちにはできるだけ多くの古今東西の短詩型文学を読んでほしいと思います。それぞれがきっと豊饒な言葉の音楽を奏でているはずです。